

研究員の授業実践 中学校第1学年 外国語科

知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すために、
資質・能力が活用・発揮される場面の設定を図る学習

日時 令和3年6月29日(火) 5校時 実施
生徒 旭川市立東明中学校1年5組 32名
指導者 久保田 竜平

- 1 単元名 Unit3 Club Activities
Unit4 Friends in New Zealand (東京書籍 1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)は、次のとおりである。

【学習指導要領】～外国語科の目標と内容～

1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) 話すこと [やりとり]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

2 内容

エ 話すこと [やりとり]

- (ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
- (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたことや読んだことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり、自ら質問し返したりする活動。

3課・4課は、生徒の関心ある話題についてwhenやwhereなど様々な疑問詞を用いて相手や自分の情報をやり取りさせる単元である。

1課、2課では、自分が普段よくすることやできることを伝えたり、身近な人やものについて紹介したりするなど、自分について発信する内容であった。本単元では、疑問詞等を用いて相手に質問したり、答えたりすることができることを目指す。

その際、小学校で学んだ既習事項や0課、1課、2課の表現も活用させながら、友達やALTと即興で伝え合う力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

4月に実施した生徒の学習アンケートによると、多くの生徒が「英語を話せるようになりたい」や「ALTや外国人と英語で対話できるようになりたい」など、英語を話す分野に興味・関心がある。言語活動の中でも、積極的にコミュニケーションを図る姿勢が多く見られ、学習意欲が高い。その反面、話す活動を行う際、言語教材の特徴やきまりを理解していないことや学習内容の定着が不十分であるなど、正確な英語使用において課題が見られる。また、見方・考え方を働かせながら伝え合う内容を適切に表現する点に関しても指導が必要であると感じる。やり取りを行わせるにあたって、目的や場面、状況などに応じて、「何を話し、聞くとよいか」と「それを英語でどのように表現するか」を生徒に思考・判断させることが重要であると考えられる。

(3) 指導観

本単元は、様々な疑問詞を使った文を用いてALTや友達の情報などを聞き取ったり、自分の情報や考えなどを伝え合ったりする言語活動を通して、即興でやり取りする能力を育てていく。そのため、毎時間の帯活動や教師とのやり取りの中でスモールトークを積み重ね、生徒の課題でもある英語使用の正確さと表現内容の適切さを磨く。

なお、4課が終了した後に、「思考・判断・表現」を問うパフォーマンステストを行う。3課と4課の言語活動の中で生徒が粘り強く「知識及び技能」を習得し、自ら「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていくことができるようにする。そのため単元の最初に目指すべき姿を共有し、生徒に自己目標を設定させ、意図的に振り返りと自己調整の場を設け、生徒が主体的に学習に取り組めるように支援していきたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

- ① 「教室環境の整備」について
 - ・黒板横に掲示物を多く貼らず、生徒が授業に集中できる環境を整備してきた。
- ② 「学習規律の確立」について
 - ・教師が早めに教室に入り、休み時間に学習用具の準備をさせてきた。
 - ・チャイム前に着席させ、チャイムと同時に学習が開始できるよう心掛けてきた。
 - ・正しい姿勢で学習に臨み、相手の目を見て話を聞くよう指導してきた。
- ③ 「支持的風土の醸成」について
 - ・間違いや失敗をおそれず、何事も挑戦するよう指導してきた。
 - ・互いを尊重することや、相手の考えに耳を傾け、相手に配慮しながら自分の考えを伝えられるよう指導してきた。

3 単元の目標（3課・4課）

- (1) 疑問詞 when, where, what などの特徴やきまりを理解している。また日常的な話題についてそれらの疑問詞などを用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合う技術を身に付けている。
(知識及び技能)
- (2) ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合うことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準（3課・4課）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 when, where, what などの特徴やきまりを理解している。 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题についてそれらの疑問詞などを用いて情報を即興で伝え合う技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常的话题について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常的话题について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における 18 次研究との関わり

研究内容（3）指導計画・評価計画

主体的に学習に取り組む態度における評価時期と評価材料

<指導計画>

0 課, 1 課, 2 課を「話すこと[発表]」を指導する内容のまとめりとして捉え, 自己紹介や自分自身の情報などを発信できることを目指し指導を行った。

3 課は, 日常的话题について疑問詞を用いて相手や自分の情報をやり取りさせる単元である。4 課でも同様に疑問詞を用いたやり取りが中心となる。そのため, 3 課と 4 課の二つの単元を通して, 外国語科の「内容のまとめり」である「話すこと[やり取り]」の領域に重きを置き, 即興でやり取りする能力を育む指導計画とした。

<評価計画>

評価計画としては, 各単元の終末にミニパフォーマンステストを行い, その様子を見取り, 指導に生かしていく。最終的に二つの単元が終了した後に, ALT とやり取りのパフォーマンステストを行い, 生徒の変容した姿を記録に残す。

外国語科における主体的に学習に取り組む態度については, 授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができる規準となるよう, 「思考・判断・表現」と対の形となっている。そのため, 3 課では, 7 時間目と 8 時間目にやり取りのミニパフォーマンステスト①を行い, 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り, 指導に生かしていく。また, 4 課でも同様にやり取りのミニパフォーマンステスト②を行う。ここでのミニパフォーマンステストは, 学習の調整を図らせるものであり, 記録に残す評価とはしない。毎時間の言語活動や 2 つのミニパフォーマンステストを粘り強く取り組ませる中で, 自らの学習を調整させながら, 主体的に学ぼうとする態度を育み, ALT とのパフォーマンステストで総括的な評価を行う。

<主体的に学習に取り組む態度における評価時期>

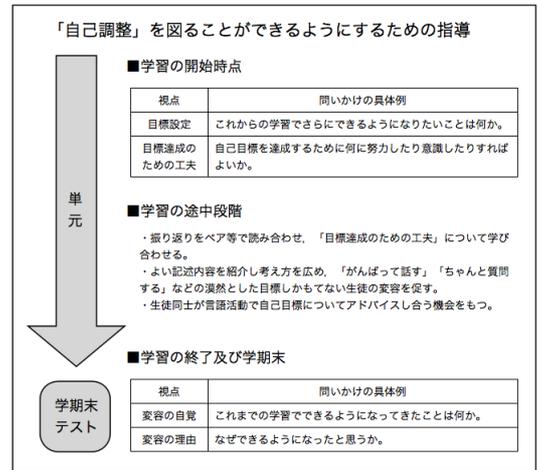
3 課	知 思 主	<ul style="list-style-type: none"> ■「思考・判断・表現」と基本的に一体的に評価しつつ, 言語活動への取組状況を観察しその結果を加味する。 ■「学びに向う力, 人間性等」は時間をかけて育まれるものである。したがって, 「主」を評価する時期は, 単元終末や学期末等で行うパフォーマンス等が基本となる。
4 課		<p><評価材料></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>パフォーマンステスト + <input type="checkbox"/>振り返りシート <input type="checkbox"/>行動観察 <input type="checkbox"/>ノートなど
後日	記 記 記	

【生徒の評価例】

	3 課	4 課	話すこと[やり取り] ALT とのパフォーマンステストの結果
知	/	/	a
思	/	/	b
主	/	/	b

※3 課, 4 課では, 言語活動や単元の終末に行うミニパフォーマンステストに粘り強く取り組ませ, 学習の調整を図らせながら, 指導を継続して行い, 主体的に学ぼうとする態度を育てていく。最終的にパフォーマンステストにて記録に残す評価を行う。

主体的に学習に取り組む態度を見取る際、終末に行うパフォーマンステスト以外でも様々な工夫を行う。単元の1時間目に単元終末の言語活動をイメージさせる。その際、見通しをもたせ、自己目標を設定させる。また振り返りシートを使って、何ができるようになったのか、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標に近づいているのか等を記入させる。その際、生徒の振り返りが実際の態度に表出されているかを行動観察し、変容がない場合は個に応じた指導を行う。単元の途中では、自らの課題を解決させるために生徒同士でアドバイスをし合う場面を意図的に設け、学習の調整が図れるように指導する。



(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文 □ 学習課題 □ まとめ ◎ 目標 記録 記録に残す評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1 2	Unit3-1 ◎いつ・どこなのかをたずねることができる。 主体的な学び ○Unit3・Unit4の最終ゴールを共有する。 ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常生活について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 ○Unit3 と Unit4 の学習計画を見ながら、自己目標を設定する。 ○課題を把握する。 お互いのことをよりよく知るために、家庭での生活について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 ○教科書の本文 (Unit3-1) を読み聞きして、疑問詞 when, where の使い方を理解する。 ○友達と家庭での生活について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整 (集団思考) →言語活動② ○第1・2時の学習を振り返る。	・観察 ・ノート ・ワークシート 指導の手立て 指導の手立て 帯活動で身近な話題に関するやり取りの言語活動に取り組みさせ、相手の話に関わらせたり質問したりさせる。 (以下同様に指導する。)	・観察 ・ノート ・ワークシート 指導の手立て やり取りの目的を理解させ、何を話し、聞くとよいかを考えさせる。またノートやワークシートを参考にしながらどのように表現するかを考えさせる。 (以下同様に指導する。)	・観察 ・振り返りシート 指導の手立て 単元のゴールに対して、自己目標を設定させる。小ままとまりごとに学習の振り返りを行わせ、学習の達成状況を確認させる。 ・自己調整の場を設け、自己の課題を修正させる。 (以下同様に指導する。)
3 4	Unit3-2 ◎したいことや夢を伝え合うことができる。 ○課題を把握する。 お互いのことをよりよく知るために、将来の夢について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 ○教科書の本文 (unit3-2) を読み聞きして、want to の使い方を理解する。 ○友達と将来の夢について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整 (集団思考) →言語活動② ○第3・4時の学習を振り返る。	・観察 ・ノート ・ワークシート	・観察 ・ノート ・ワークシート	・観察 ・振り返りシート

5 6	<p>Unit3-3 ◎数をたずねたり答えたりできる。 ○課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>お互いのことをよりよく知るために、部屋にあるものについて簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</p> </div> <p>○教科書の本文 (unit3-3) を読み聞きして、how many の使い方を理解する。 ○友達と部屋にあるものについて互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整 (集団思考) →言語活動② ○第5・6時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート
⑦ 8	<p>Unit3 ミニパフォーマンステスト① ◎お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えを即興で伝え合うことができる。 ○課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ALT とのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いて情報を即興で伝え合おう。</p> </div> <p>○友達と部活動について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整 (集団思考) →言語活動② ○第7・8時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。 ・自己調整の場を設け、自己の課題を修正させる。 </div>

4 課 単元の指導計画と評価計画

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	単元 (3 課・4 課) の目標を再確認する。			
2	Unit4-① 相手に指示したり助言したりしよう			
3	Unit4-② 時刻をたずねたり答えたりしよう			
4				
5	Unit4-③ 何が好きかたずねたり答えたりしよう			
6				
7	Unit4 ミニパフォーマンステスト② ◎ALT とのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、好きなものについて、簡単な語句や文を用いて情報を即興で伝え合っている。			
8				
後日	Unit3・Unit4 パフォーマンステスト ◎ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常生活について、簡単な語句や文を用いて情報を即興で伝え合っている。	記録	記録	記録

6 本時の学習（8時間扱い 7／8）

(1) 目標

ALT とのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について、疑問詞 when, where, how many などの簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等（指導に生かす評価）】

ALT とのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について、疑問詞 when, where, how many などの簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等（指導に生かす評価）】

(2) 本時における 18 次研究との関わり

研究内容（4）観点ごとの総括

本時における主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方

本時では、やり取りのミニパフォーマンステストを通して、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取る。ミニパフォーマンスを行う前に個人で質問事項や伝えたい情報などを考えさせる。その後、グループにてペアを代えながら実際にやり取りさせる。その様子を見取り、指導していく。その際、努力を要する生徒を把握する。グループ内でのやり取りが一通り終了したら、「何ができて、何がうまくいかなかったのか」を振り返らせ、各自の課題を確認させ、修正させる。生徒同士がアドバイスをし合ったり、努力を要する生徒へは個人指導を行ったりすることで自らの考えを再構築させる。その後、もう一度グループにてミニパフォーマンスを行い、生徒の変容を見取っていく。本時では、努力を要する生徒を中心に見取り、全員が目標を概ね達成できるよう目指す。

また、終末において本時の振り返りを行い、「振り返りシート」に何ができるようになったのか、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標の達成状況などを記入させ、次時への学習意欲を高める。

次時でも同じ形式のミニパフォーマンステストを行い、2時間分を通して最終的に全員を見取る。主体的に学習に取り組む態度においては、7時間目に振り返りシートに記述した内容が8時間目のテストの中で実際に表れるように、テストを行う前に十分に前時の振り返りをさせてから即興のやり取りをさせる。

《評価基準》

お互いのことをよりよく知るために…

条件1：【質問できる】Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文で質問している。

条件2：【応答できる】相手の質問に対して、その場で適切に応答している。

条件3：【継続・発展】関連する質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら、対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	関連する質問をし話題を広げたり、自分の情報を詳しく伝えたりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしている。	関連する質問をし話題を広げたり、自分の情報を詳しく伝えたりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	「b」に満たしていない。	「b」に満たしていない。	「b」に満たしていない。

※本時では、多くの生徒が「おおむね満足できる」状態を目指し、指導を行う。

《努力を要する状況になりそうな生徒への支援》

〈個人思考〉 ミニパフォーマンステストを行う前の場面

【支援1】

- ・お互いのことをよりよく知るために、「何を聞きたいか」「何を伝えたいか」を考えさせる。(内容面での支援)
- ・机間指導の中で、教科書やノートを振り返らせる。(言語面での支援)

〈集団思考〉 ミニパフォーマンステストの前半が終了し、学習調整を行っている場面

【支援2】

- ・生徒は自分の課題を解決するために、教師や友達からアドバイスをもらう。(言語面と内容面での支援)
- ・上手に対話をしている生徒の demonstration を見せる。(言語面と内容面での支援)

(3) 展開

1 単位時間の問題文 1 単位時間の学習課題 まとめ **白抜き** 研究との関わり

教師の活動	生徒の思考と手立て
<p>1 Greeting</p> <p>2 帯活動 (Pair Work)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Last Man Standing Quiz ・One Minute Conversation (20 秒間) <p>3 課題提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・One Minute Conversation の最後のトピックを部活動にし、やり取りさせる。(40 秒間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との即興のやり取りを通して、既習事項を確認する。 ・生徒同士の即興のやり取りを通して、既習事項を確認する。 ・会話が止まり困ることが想定される。
<p>ALT とのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</p>	
<p>4 個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのことをよりよく知るために、どんな質問をすればよいのか、どんなことを伝えればよいのかを考えさせる。 ・グループメンバーを伝える。相手意識をもたせる。 <p>5 ミニパフォーマンステスト (前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた質問を元にグループ内の友達と即興のやり取りをさせる。(40 秒間、3 人グループ、一人 2 回のやり取り) 	<p>【支援1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのことをよりよく知るために、「何を聞きたいか」「何を伝えたいか」を考えさせる。(内容面での支援) <p style="text-align: center;">↓ 内容面から考えさせることで、必要な言語教材は何かを考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の中で、教科書やノートを振り返らせる。(言語面での支援) <p>●指導に生かす評価【思】【主】</p> <p>全体を見ながら、1つのグループを中心に見取る。その際、<u>努力を要する生徒を把握</u>する。</p>

6 集団思考

・何ができて、何がうまくいかなかったかを振り返らせ、課題を修正させる。(個人→グループ→全体で共有させる)

7 ミニパフォーマンステスト (後半)

・修正した質問を用いてもう一度同じグループの友達と即興でやり取りさせる。(40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り)
 ・別のグループの友達と即興でやり取りさせる。(40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り)

主体的に学習に取り組む態度

【支援2】

・生徒は自分の課題を解決するために、教師や友達からアドバイスをもらう。(言語面と内容面での支援)
 ・上手に対話をしている生徒の demonstration を見せる。(言語面と内容面での支援)

●指導に生かす評価【思】【主】

全体を見ながら、1つのグループを中心に生徒の変容を見取る。

【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】

<何を> 以下の3つの条件を満たして即興でやり取りしようとしているか。
 ①【質問できる】Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文で質問している。
 ②【応答できる】相手の質問に対し、その場で適切に応答している。
 ③【継続・発展】関連する質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら対話を継続している。
 <どこで> ミニパフォーマンステスト
 <何で> 行動観察、振り返りシート
 <手立ては> ・言語面でのつまずきには、教科書やノートを振り返らせる。
 ・内容面でのつまずきには、目的をしっかりと理解させたり、振り返りの時間を設け修正させたりすることで自ら考えさせる。

8 振り返り

・「振り返りシート」に記入させる。その際、何ができるようになったのか、そう判断した根拠は何か、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標の達成状況などを書かせる。

主体的に学習に取り組む態度

「お互いのことをよりよく知るために、色々な質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら、会話を続けることができた。(粘り強さの例)」
 「ミニパフォーマンステストでは相手の質問に答えることはできたけど、自分の情報を即興で伝えることができず、話題を深めることができなかったので、次回は自分のことも伝えながら、やり取りできるようになりたい。(自己調整の例)」

(4) 板書

<p>《Today's Mission》</p> <p>ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</p>	<p>大事な視点</p> <p>Big Voice Pardon?</p> <p>Eye Contact Reaction</p> <p>Smile Follow-Up Question</p> <p>Try</p>
<p>《Today's Topic》</p> <p>club activity</p>	